

令和7年度 久留米市文化芸術振興審議会 第1回会議（要旨）

1 開催日時

令和7年6月4日（水）10時～11時30分

2 会場

久留米市美術館 1階多目的ルーム

3 出席委員（名簿順） ※10名、欠席なし

木藤委員（会長）、内野委員（副会長）井原委員、入江委員、翁委員、片山委員、日下部委員、西依委員、前原委員、矢次委員

5 事務局 ※8名

市民文化部 文化芸術担当部長 田代部長
文化芸術担当次長 陣内次長
文化振興課 箔谷課長、中山課長補佐、古賀主査
文化財保護課 井上課長
久留米シティプラザ事業制作課 山田課長
久留米シティプラザ総務課 江越課長補佐

※他に、（公財）久留米文化振興会より3名同席

6 議事次第

1 開 会

2 委員紹介

3 内 容

（1）諮問

次期久留米市文化芸術振興基本計画の策定について

（2）議題審議

- ① 第3期久留米市文化芸術振興基本計画（令和2～7年度）の総括
- ② 次期基本計画策定における基本方針
- ③ 次期基本計画の骨子素案

4 閉 会

議事録

1 開 会

- 事務局より、過半数の委員が出席しており、会議が成立していることを報告。

2 委員紹介

- 委員、事務局を紹介。

3 内容

(1) 諮問

田代部長より、木藤会長宛てに諮問書を読み上げ、次期基本計画の策定について審議会に諮問（諮問書を会長にお渡し）。

田代部長より挨拶。引き続き、木藤会長、内野副会長より挨拶。

(2) 議題審議

① 久留米市文化芸術振興基本計画（令和2～7年度）の総括（案）について

- 事務局より資料1に基づき、現基本計画の総括案を説明。

質 疑

○ 木藤会長

- ・ 前回の審議会で、今の第3期の基本計画では、総括目標を高めに設定していた、とお話していた。そのため、評価がB, C, B判定になったのは事実として、また後の議題で話があると思うが、計画の評価の仕方については、次期計画で考えてもらいたいと思う。今回の総括案については、「1. 総括目標の達成状況」だけで評価するのは厳しいが、「2. 主な取組の成果と課題」の柱ごとのまとめ、そして検証結果という構成で、前回の総括案より工夫され、コンパクトにまとめられている。

○ 片山委員

- ・ 総括目標が目標値に残念ながら達しなかった要因として、令和6年はコロナの影響はほぼなくなっていたと思うので、おそらく、コロナで文化芸術を鑑賞するということが無くなってしまって、そのまま現在まで過ごしてしまっている、ということがあるのではないかと。そうだとすると、そうした要因も書いてもらってもいいのではないかと。
- ・ また、令和6年度で言えば、やはり経済的な要因として、物価が高くなったこともあるのではないかと。特に高齢者世帯は給与が伸びないので、物価高はそのまま生計費の上昇に繋がる。生活の次に文化芸術があるといったことは、しょうがないところもあるが、家計の経済的な要素も、コロナ後の回復が遅いことの分析に入れてもらえると、次の計画策定につながるのではないかと。

○ 木藤会長

- ・ コロナの影響が終わっているのに、市民の鑑賞・活動の状況は回復していない。そこに経済的な問題もあるのでは、という貴重なご意見だった。確かに年金生活者などは余裕がなくなっていると思う。事務局には総括での書き方を少し検討してほしい。他にご意見は。

○ 矢次委員

- ・ 片山委員が言われた、市民の鑑賞の状況が復活しない理由については、次期計画に盛り込む内

容の参考となると思う。市民の鑑賞の習慣を増やすために、今後やるべきことがあるのでは。それをこれから本気で考えないといけないと思う。

○ 翁委員

- ・ 最後の6ページの検証結果のところ、(4)の文化施設はどこを指しているのか。文化施設の老朽化について、これまで柱でしっかり出されたことがなかったと思うので、この「施設の老朽化や災害復旧への対応」といった言葉が、他の検証結果より目立っているように見える。先ほどのコロナの影響の話があったが、今後の市の施設の管理運営については、市でどういう整理をされたのか。

● 事務局

- ・ ここでの文化施設は、現計画の柱の一つに、久留米シティプラザと久留米市美術館の2施設で重点的に施策を実施する、と記載しているように、まずはシティプラザと石橋文化センター・久留米市美術館、そして周辺のインガットホール、そよ風ホールなどを指すものとして記載している。施設の老朽化の問題については、文化施設だけではなく市の公共施設全体の管理運営の問題ともなるため、文化施設だけを今後こうしていく、ということは記載しづらい。計画にある文化施設については、市民の文化活動の場所として適切に管理運営し、市民に活用いただくという考えで記載していきたい。

○ 入江委員

- ・ 前回の総括案からかなり変わって、成果と課題という形でまとめられ、分かりやすくなった。今後何をすべきか、課題から見えやすくなっている。一方で、総括目標は数値目標となっており、このままでいいのか、と思う。前回の審議会で示された総括案では、文化施設の入館者数の推移も指標としてあったが、今回示された総括案では、その推移の数値がなくなっている。今回の総括案にも、そうした数値を残してもよかったのではと思う。

● 事務局

- ・ 現在の総括目標の設問だけでは、市民の文化芸術の鑑賞・活動の実態を把握しにくくなっている。インターネットの鑑賞で満足している市民が約3割いる、という調査結果を見ても、それを鑑賞と捉えるのかどうか、と言う問題もある。次期計画でどういう目標を設定するかは、とても大事なことなので、色々なご意見をいただきたい。後の骨子素案の議題のところでも、またご説明したいが、事務局としては、新たな目標を設定したいと考えている。
例えば、市民の文化芸術の環境に対する満足度を、計画全体を見る目標として設定しておいて、文化施設の入館者数の推移や、各事業の実績や改善などの進捗の状況確認を、あわせて見ていくことはどうか、と考えている。

○ 木藤会長

- ・ 今の総括目標では達成状況が厳しいが、何か他の指針があるといいのかもしれない。
「2. 主な取組の成果と課題」では、成果に具体的な数字が入っていない。どのくらい参加者

数があったかなど、入っていると成果が見えやすい。そうしたことにも今後留意してほしい。

○ 内野副会長

- ・ 前回の会議で、アンケートのサンプルの取りかたも考える必要があるとお話したと思うが、やはりこの総括目標で、市民の答えの結果として見るのが、とても疑問に思う。そして、市の事業ごとに、「今年はこちらを目指す」ということが違ってくると思うので、「この事業については、こういう目標があって、それを達成できたか」ということが、まとめて見られるとよい。施設についても、「この文化施設では、入館者数の目標を〇人としたが、こうした理由で△人となって、目標を達成できなかった」など、具体的な数値で分かるといいと思う。

○ 木藤会長

- ・ それでは、次の計画での目標をどうするかについては、また議題3でご意見をいただきたい。

② 次期基本計画策定における基本方針

■ 事務局より資料2に基づき説明。

質 疑

○ 矢次委員

- ・ 次の計画での目標は、これまでに出了された意見では、①市民満足度、②入館者数、③事業の達成度、の3つがあったと思うが、①の市民満足度がB・C評価だったのに、③の事業達成度はA評価だった、といったことがまた出るかもしれない。全体目標と事業達成度のリンクが見えにくいということにジレンマを感じる。審議会としては、具体的な目標を立ててもらったほうが評価をしやすいと思うが、今後、上位計画の目標との関連性なども、どう整理していくのか。

● 事務局

- ・ 今いただいたご意見については、また次の議題でもご説明させていただき、ご意見いただきたいが、現在、次期総合計画の方でも、目標をどうするかということについて、検討されている。その検討状況を参考としながら、こちらの次期計画の目標も設定していきたいと考えている。

○ 井原委員

- ・ 策定方針の1, 2は、計画の基本的な考えとなるものだと思うが、「次期計画では、こうした社会環境の変化、国の動向に応じた内容へ更新していく必要があります」とあるだけでは、「国がこうだから市はこうします」ではなく、「国と同じように市も変わらないといけない」と言っているように見える。総括案で、「久留米市ならではの文化芸術資源のさらなる活用と、効果的な情報発信」と言われていたように、もっと久留米らしさ、それを高めるようなことを付け加えてほしい。国がこうだから、ではなくて、より自主的・積極的に策定する姿勢を、ぜひ策定方針の文言に入れてもらえたらと思う。

● 事務局

- ・ 現計画の基本理念「市民が主役の楽しい文化創造都市・久留米」は当然引き継ぎながら、さらに今の社会状況、国の動向も踏まえた内容に更新していく、ということを書かせていただいていたが、ご指摘いただいた「久留米ならではの文化芸術資源」「久留米らしさ」といったことは、きちんと分かりやすい形で、記載していきたい。

○ 木藤会長

- ・ 前面に久留米らしさを出されたら、ということなので、ぜひ事務局には検討してもらいたい。他に何か。

○ 翁委員

- ・ 資料2の3ページの「計画の位置付け」で、個別計画との関連性が分かりやすくまとめられているが、こうした分かりやすい計画になるといい。SDGsも表になっていると思う。障害者のための計画などとも一緒に連携していく、ということが見えるといい。

● 事務局

- ・ 今後、そうしたことが見えやすくなるよう、検討したい。

○ 矢次委員

- ・ 井原委員が言われた久留米らしさは、久留米の強みとして、明確に書き込まないといけないと思う。市内部では分かっていることだが、市民や色々な人が目にする計画になるのだから、強みの部分は、骨子案でもしっかり出したほうがいい。

○ 入江委員

- ・ 今の意見をお聞きしていて、自分はマスコミの仕事で他市の計画を見る機会があるが、どこも金太郎飴のように、国の方針に沿った同じような内容になっているものが多く、その土地の特徴を捉えた計画、目標になっていない。土地の特徴を捉えた目標というのは、なかなか難しい面があると思うが、そうした目標づくりになるといいのかもしれない。

③ 次期基本計画の骨子素案

■ 事務局より資料3に基づき説明。

○ 木藤会長

- ・ ただいまの説明に対してご意見は。

○ 西依委員

- ・ 骨子素案の4章の基本方針は、分かりやすくなっていると思う。難しい言葉で書かれるよりは、文化芸術を楽しむ、といったやさしい言葉が、市民も一緒になってやっているという感じが伝

わって、とてもいいと思う。内野副会長が話されたように、自分も、今の総括目標を市政アンケートだけで評価するのはどうかとずっと思っていた。計画に関連する人たちは皆一生懸命にされているのだから、次期計画では、そこをうまく理解してもらえるようなものにならないだろうか、と思う。

○ 内野副会長

- ・ この計画の流れについて改めて確認だが、来年度から新しい計画になる。今年度で今の計画が終わって、一区切りとなる。その結果を集約されているわけだが、その結果を見てどうするか、ということはどこで話されるのか。この審議会は新しい計画を立てる会議であって、計画を受けてどうしたらいいか話し合う場ではない、ということなのだろうか。

● 事務局

- ・ この審議会の役割としては、まず、計画を策定いただき、市長に答申いただくということがある。また、計画の進捗について意見を出していただくという役割もある。例年、計画の策定の作業がない年では、計画の主な取組について、実績と計画をご説明し、改善に向けたご意見などをいただいていた。次の計画においても、取組の進捗について「もっとこうしたらどうか」などご意見をいただく形を継続したいと考えている。

○ 日下部委員

- ・ 骨子素案の第4章「基本施策・主な取組」の部分は、これまでより分かりやすくなっていると思う。取組の一つに文化芸術コーディネーターがあったと思うが、この中ではどこに入ってくるのか。コーディネーターの役割から考えると、文化芸術を「守る・つなぐ」か、文化芸術を「育む」になるのかと思うが。

● 事務局

- ・ 今いただいたご意見のように、取組の内容によっては、複数の方針のどちらにも入れることができる、というものが出てくると思う。これから骨子素案の基本方針に具体的な取組を入れ込む作業を進めて、全体のバランスを見たところで、次回の審議会でも再度ご意見をいただきたい。

○ 井原委員

- ・ 資料5の、国の文化芸術基本計画の前文の中に「文化芸術は、観光・まちづくり・国際交流…との連携の下、新たな価値や利益を生む」などと記載があるように、福岡県では今たくさんインバウンドがある。久留米にも呼び寄せて、新たな文化を創っていくべきだろうと思う。ぜひそうした「創る」といったことも、方針に入れてもらいたい。

● 事務局

- ・ ご意見のとおりで、市としても外国人在住者が増えるなか、そうしたことを考えていきたい。

- 片山委員
 - ・ 成果指標については、基本施策と成果指標がどう結びついているのかなど、どの計画でも難しい問題だと思う。市のマスタープランではどのような KPI が設定されているかということと、関連別分野計画での文化芸術に関わる部分での KPI の設定についても、分かれば教えてほしい。そこは意識せざるを得ない部分ではないか。

- 事務局
 - ・ 上位計画の市総合計画については、現在、次期総合計画の KPI の設定を検討中と聞いている。他の個別計画の KPI についても調べて整理し、次回の審議会で説明させていただきたい。

- 木藤会長
 - ・ 前回から話が出ている成果指標について、まずは今の総括目標をどうするか。形を変えていくのか。細かい目標をたくさん作ると大変だが、実際の成果が反映される目標として何がいいのか。次回の審議会でさらに議論していただいてもいいかと思う。他にご意見は。

- 入江委員
 - ・ 前回の審議会から、市政アンケートモニターの数値だけで計画全体の進捗を見るのは、難しいという意見があったと思う。成果指標という形で、アンケートと、イベント数、来館者数、事業実績といったものを、複数設定することになるのかと思うが、それをどう目標につなげて評価していくか、というなかなか難しい面もある。
 - ・ 次の目標は基本方針に置いていくことになるのだろうか。また、「久留米らしさ」を盛り込むことは、次期計画のどこに書くのだろうか。「目指すまちの姿」の言葉についても、これで芸術のまちの姿を表しているのか、少しぴんとこない。

- 事務局
 - ・ 計画を策定する目的としては、まず、変わらない「基本理念」があり、それをより具体的なイメージで伝える「まちの姿」があり、その姿を実現するための「柱」や「基本方針」がある。そして具体的な施策や取組で推進していく、となるが、計画の目標を方針に置くかなど、どのレベルに置くのかということ、今後検討しなくてはいけないと考えている。また、久留米らしい文化を振興していくということは大変重要な視点なので、第 1 章の策定の目的にも入れつつ、具体的な基本方針の中にも入れるなどして、整理をしていきたい。

- 内野副会長
 - ・ そもそも「久留米らしさ」とは、どういうものなのか。それを今後どうしたいのか、と言ったことをしっかり検討すべきではないか。それをどう支援していくか、といった具体的なことも考えないといけないと、計画の中身がなかなか進まないのでは。この基本計画は全国でも策定が早かったという話があったが、久留米市に文化部が教育委員会にできたのも、たしか近見市長の時で全国的にもとても早かったと思う。そのくらい、久留米は昔から文化に力を入れてきた、ということも久留米らしさだと思う。久留米らしさの視点についてもっと話し合って、そこか

ら出た意見に対してどうしていくか、という作業が必要になってくるのではないか。

○ 木藤会長

- ・ それでは、本日は時間の都合もあるので、次回の審議会ではさらに意見を出していただきたい。事務局から、今後の策定スケジュールについての説明はなかったか。

● 事務局

- ・ はい。次回の審議会は7月下旬を目途に開催させていただきたいと考えている。骨子案、原案と中身を固めていく中で、庁内の関係部署や市民の声を聞くパブリックコメントなども予定している。進み方によっては、スケジュールがやや前後することもあるかと思うが、引き続き委員の皆様のご協力をお願いしたい。

4 閉 会

○ 木藤会長

- ・ 閉会の挨拶

● 事務局

- ・ その他、次回の審議会の日程調整等について事務連絡

以上